

第135回 学ぼう会北摂 講演会

南木隆治(みなきたかはる)

『ウクライナ戦争・日本人の覚醒・近未来日本の可能性』

A ウクライナへのロシア侵略について。ウクライナから学べ。ウクライナは核放棄し、武装解除したら侵略された。我が国は世界一危険な状態にある。いつまでもあると思うなアメリカの核の傘。

2月24日、ロシアのウクライナ侵攻で、世界史は次の時代に入った。2022.2.24は世界史の転換点。我が国が最も急ぐべきことは、「核シェアリング（アメリカが断れば英国に打診せよ）」そして「核武装」である。ウクライナが核放棄していなければ、今日のウクライナの悲劇は100パーセントなかった。

B ウクライナの人々が頑張っている間に我が国は為すべきことを為さねばならない。プーチン失脚、ロシア共和国の崩壊までありうる。核戦争から、シベリアの空白迄、「想定外」は許されない。

C 我が国はすでにロシアと「戦争状態」。国民はそのことが分かっていない。2.24以前には戻れない。ロシアは北海道の領有権まで主張し始めたている。ロシアとの関係は、77年前に戻った。

D チャイナの、上海はじめ大都市のスーパーロックダウン。中露の自壊が同時に始まっている。共時性。

E 神意から見る。我が国が「八百万の神々」が導き給う国であるとすると、今起きていることは何か。旧石器時代、縄文以来の、世界最長の文明がこの地で続いており、人類で、おそらく唯一無二である。鎖国と太平、日本独自の文明の純化。大東亜戦争敗北。憲法9条。阪神大震災、東北大震災。バブルと30年間の低成長。そして、現在、大変な危機と、大変なチャンスが同時に来ている。日本は何物にもなる。

F トランプだったら、今の危機はなかった。しかし、バイデンのおかげで、世界史は急速に流動化し始めた。DS（ディープステート）を論じて、世界の仕組みを認識しても、日本が主体的に何を為すべきか、我々一人一人が何を為すべきか、分からなければ、意味がない。DSなど、それが何であろうと、人類史における我が国、わが民族の役割、使命、歴史的現実を見れば、恐れるに足らず。

G 物事すべて歪んで見える「自虐眼鏡」を外して、我が国を見れば、我が国さえしっかりしていれば、アメリカ大統領が誰であろうと、「ウクライナ危機」など、我が国の姿勢一つで。初めから起きなかつた事は自明。（すでに憲法改正され、精強な国軍が整備され、少なくとも核シェアリングが成立していれば、ロシアは怖くてウクライナ侵略などできたはずがない。）

H 4島返還と言うようなちっぽけな話は、「八百万の神々」の御意志ではなかつた可能性が高い。対露戦後処理は振出しに戻つた。最低でも、千島全島、樺太全島、そして、シベリア強制連行、奴隸労働をさせた罪、日ソ中立条約の一方的破棄により起きた全結果の見直しを考えると、バイカル湖以東のシベリア諸民族の独立、日本の緩衝地帯としての親日圏の確保まで、歴史は進むのかもしれない。当面は、英米とともにそれを進める事を考える。アメリカもそうすれば、原爆投下について対日罪滅ぼしをしたことになる。「ハリマン提案」拒否の失敗の教訓を忘れるべきでない。→ 現在の延長で近未来を考えることが重要。

I 『チャイナ艦隊撃滅』『ロシア太平洋艦隊撃滅』を海上自衛隊は、きっと、実現可能なこととして準備してくださっている。大事なことは継戦能力。今すぐ防衛費をGDP2パーセントに。

J 量子力学、この世界がホログラムであるとして、対応する2次元情報はどこにあるか。この宇宙の表面はどこにあるか？

① 繰り返し返し言っているように、現在は『世界戦国時代』である、誰が「徳川家康」になるかは決まっていない。

② ウクライナの人々は本当に氣の毒。ブタペスト合意、ミンスク合意、合意はウクライナにとって破られるためにあつた。「ウクライナ」は、わが国の目覚めに為に犠牲になってくださっている。

「ウクライナ」の人々の悔しさに思いをいたさねばならない。その悔しさは日本の比ではない。

③核武装すれば、拉致問題は解決できる。(国家の無意識の願望を言えば)「北朝鮮」は、早く我が国が目覚めることを願って、ミサイルを撃ってくれている。早く核武装してくれと思っている。日本が核武装してあげなければ、北が核を持ったままの半島統一は国際的に許されるはずがない。北朝鮮は、我が国が核武装するように、核武装してくれたのだと思っても良い。

④一刻も早く、核シェアリング、核武装への道を開くべき。

⑤日本がよって立つ77年間の、戦後世界秩序はすべて終わったのだと覚悟しなければならない。

⑦東京都知事が、「太陽光パネル」義務化を提唱。ところで、橋下徹市長時代に、大阪咲洲の太陽光パネル発電所は「上海電力」を誘致したのはなぜか。更に、海上風力発電に重大な危惧アリ。その会社は実はチャイナの会社じゃないのか。この仕組みは「橋下徹スキーム」と山口敬之氏が言っている。

⑧日本維新の会は正念場。青柳代議士のような立派な質問(核武装)もいれば、鈴木宗男氏もいる。

政府は言えないから、閣外の自民、維新、国民民主、その他、野党がもっと核武装論を言うべき。

⑨今は『日本維新の会』は、丸山穂高氏に申し訳なかったと謝るべき時だ。

⑩南木は何度も言っていますが、「維新」という政党は改革政党であって、国家論を持っていない。大阪では、自民党が共産党と相乗りするような状態だから、自民より右に出た維新が大きく伸長した。大阪の高校生が『日の丸行進』で日の丸の小旗を走って取りに来てくれるの「大阪維新の会」が「国旗国歌条例」を定めてくれたおかげである。橋下氏が当時支持されたのは当然だ。しかし「維新」は国政政党になる資格がまだないのに、「勢力拡張」を計った。地域政党は「改革政党」でよいが、「国政政党」は国家論なくしては、その勢力は、勢いだけでは結局崩壊する。源平の合戦から現在まで、例外はない。



⑪「フジ住宅裁判」は、最高裁において我が国の司法権が正常に機能するかどうか、極めて重要な段階に来ている。「フジ住宅裁判」と「ウクライナ戦争」。大阪地裁、高裁判決は、「戦時」を一切想定していない。憲法に緊急事態条項がなく、スパイ防止法もない。万が一ロシアと我が国が交戦状態になれば、「売国奴」と言う言葉で反日的な日本人を批判すれば「ヘイト行為」? /「国旗バッジ」を身に着けている者の入廷を認めない清水響裁判長。/原告が裁判を起こしたことを見たがる自由が「フジ住宅」にはないと清水裁判長は定めた。/我が国には「戦時」に対応する規定が、憲法にも、法律にも一切ない。チャイナと交戦状態になつたらどうなるか。「国防動員法」。世界の一流企業は「正義」を実現するためなら、国家を応援して、戦争に参加する。/「フジ住宅」が一見業務に関係がないように思える「世界情勢」に関する書籍や、情報を社員に配布して何が悪い? /21世紀の戦争は、国家、軍、企業、非政府組織。各種団体、情報戦にたけた多数の個人が、それぞれ自らの決定によって参戦する、真の意味での「戦国時代」だ。

⑫「ウクライナ戦争」は全世界の全問題と深く繋がっており、今世界の中心はウクライナであり、もう一つの中心は、そこがどうなるかで世界の流れが変わるという意味で、日本である。

⑬日本は目覚めるだろう。自民も、維新もその他の政党も、愛国心と、人類愛を持つ人々が、一緒になって、我が国の目覚めに貢献し、最高裁はふやけた下級審の判断を必ず覆すであろう。我々は日本を信じ、自分を信じなければならない。

⑭、西暦2040年、我々は日本を完全に再興しあわっており、『紀元2700年祭』を盛大に挙行せねばならない。

⑮ 日英同盟復活は歴史の必然。

⑯ロシア連邦崩壊後、国連の常任理事国はどうなる。、チャイナ共産党崩壊後、国連常任理事国にチャイナの後継国家が就任する事は絶対阻止。次の東アジアの常任理事国は我が国でなければならない。

⑰ アメリカの『因果応報』はこれから。地雷。カリコルニア。多言語。「銃、病原菌、鉄」。

⑱次回『ブルーリボン訴訟』第6回期日は令和4年6月10日(金)。(以上) (参考図書は別紙)